



煌く若手後継者に聞く

漲

るパワーと明るい笑顔。相馬の若手後継者は、そんな印象を持つ人ばかりだ。

現在、リンゴ生産者の高齢化や後継者不足といった問題が深刻化しているなかで、JA相馬管内では若手後継者が一丸となって一生懸命にリンゴ生産に取り組んでいる。今回紹介する林

崎 樹さん(22歳) もその内の

一人だ。若くして農業というビジネスに飛び込んだ林崎さんに迫る。

★父の背中を見て育つ

リンゴ栽培に汗を流す父の姿を幼少期から見て育った林崎さん。

農業っていいよね!

相馬が誇れる若きパワー、ここにあり



袋掛けに汗を流す林崎 樹さん(藤沢地区)

中学生の頃から草刈りや収穫

を手伝い、高校3年の夏には就農を決意していたという。就農1年目は、リンゴ生産における専門用語が飛び交うなかで、疑問や苦労が多かったことを振り返る。また、日々の農作業で様々な壁が立ちほだ

かるなか、父が手掛けるリンゴ樹を見て自分との違いを模索。収穫時期が近づくにつれて、父

が手掛けるリンゴが真っ赤に輝き、そこには自分が抱える多くの疑問の答えがあったと教えてくれた。剪定や着色管理、病害虫防除など、あらゆる知識を身に付けていく中で、父の存在は大きいと話す。

★大切な仲間達に支えられて

就農と同時にJA相馬村青年



農業を本気で楽しむ最高のメンツがここにある

部に入り、多くの若手後継者と

出会う。真っ直ぐな気持ちで農業の道を突き進む先輩方は、いつも明るく元気で前向きであり、自慢のできる人ばかりだ。林崎さんは、青年部の活動を通して数多くのことを学び、青年部と

いう大切な仲間が自分の大きな財産になると話す。部員とのリンゴ生産における情報共有は、農業を営む上でとても大切であり、自分の力になることから、多くの出会いに自分を支えられていると

笑顔をくれた。高品質生産に向けて彼は今日も突き進む。

飛馬の里で輝く若き力は、相馬が誇れる自慢のひとつだ。今後も相馬で活躍する若きエースたちをピックアップしていきたいと思う。